

【平成 30 年度 県外研修会参加費等助成事業 研修報告】

図書館に行けない利用者への有効なサービスを求めて
(第 20 回図書館総合展参加報告)

南部町立図書館運営協議会会長 作野 誠

鳥取県図書館協会からの助成で第 20 回図書館総合展に 4 泊で参加出来た（詳細は、図書館総合展. <https://www.libraryfair.jp/>, 第 20 回図書館総合展開催報告. <https://www.libraryfair.jp/news/8307> を参照、平成 30 年 11 月 28 日確認）。

今年 70 歳であり、助成申請を躊躇しないでもなかったが、諸々の想いで申請した。HP に、「図書館とともに進めるまち・教育・情報の未来」というキャッチフレーズがあったので、それを踏まえ、現在の自分の南部町立図書館運営協議会会長という立場を考えて、参加するフォーラムを次の 9 つにした。

初日・①アメリカの公共図書館最前線 ②Library of the Year 2018 ③PDCA をまわすエンジンとしての図書館評価、2 日目・④電子図書館をめぐる出版界と図書館界の変容—『長尾構想』から『LibrariE』まで ⑤図書館 AI の最先端 -AI の活用でリサーチが変わる ⑥人生 100 年時代 図書館でどう学び続けるか、3 日目・⑦学芸員 vs. 司書 一本気の ML 連携を目指して ⑧図書館政策フォーラム「図書館建設のための財源調達法」 ⑨第 20 回図書館総合展記念フォーラム「図書館 これまでの 20 年とこれからの 20 年」。参加基準の 1 つを知人が登壇するものとした。

図書館総合展に何回参加したかは定かでないが、最初は 2006 年鳥取県立図書館が第 1 回『Library of the Year』受賞館の時。前回は 2014 年だった記憶。これまでと今回は参加の視点が異なっていた。昨年、5 月末に南部町に帰郷して、主に図書館の利用者として、地域づくり・まちづくりと図書館の課題を考えているので、その観点から次の 3 点を考えながら、「図書館に行けない利用者への有効なサービス」を求めて 3 日間を過ごした。①どのような農業支援サービスがあればいいか。②どのようなアウトリーチサービスがあればいいか。③電子化された図書館情報資源の資産価値をどのように考えればいいか。展示は、非常勤講師をしていた愛知淑徳大学伊藤ゼミの「みんな、図書館を使おう！」を特に念入りにみた。岡本真『未来の図書館、始めます』と「図書館とコミュニティ」が特集の『LRG』第 22 号も買い求めた。アカデミック・リソース・ガイドのブースでみた写真の「ブックカフェ号」のような活動が、今後図書館に行けない利用者への有効なサービスの 1 つだと思うが、実施が難しい。

2 日目の夜は医図協・薬図協関係の懇親会。3 日目の夜には初めて大交流会にも参加した。持って行った 70 枚の名刺は、交流会の前になくなってしまった。いただいた名刺は 40 枚程。初めての方は、25 名程。名刺交換のほとんどは、帰郷の挨拶をしたことになる。これが、鳥取県の交流人口・関係人口の増加に繋がればいい。